

世界湖沼会議に関する要望と質問

国際湖沼環境委員会 様

2018年2月15日

NPO 法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

わたしたちは、10月に開催される第17回世界湖沼会議において、原子力災害と湖沼、水環境をテーマとした議論の場を設けるよう要望をしてきました。

一昨年12月28日付の御委員会からの回答書には「放射性物質」については、一つの分科会のキーワードに明示する方向で議論しております。」「東日本地域での湖沼では、原発事故による放射性物質についての調査研究が多く行われていることから、これらについての発表は基本計画等で示される枠組みの中で行うことができるものと考えております」とありました。

昨年3月9日付けの茨城県からの回答書では、「原子力災害と湖沼をテーマにしたセッション等については、主催団体のひとつである（公財）国際湖沼環境委員会とも十分協議するとともに、今後立ち上げます企画推進委員会等において、取り扱いについて検討してまいります。なお、「放射性物質」については、一つの分科会のキーワードに明示する方向で議論しております」という回答をいただきました。

ところが、発表された第17回世界湖沼会議の開催案内には、原子力災害と湖沼についての記述は一切無く、「放射性物質については、一つの分科会のキーワードに明示する方向で議論しております」（両回答書）にあったにも関わらず放射性物質というキーワードは一切見られません。

会議開催の案内では、分科会の概要とテーマの第2分科会「淡水資源の確保」にキーワードとして「化学物質による汚染（農薬、重金属）」とあり、放射性物質は明記されていません。

前回の茨城県への要望書で指摘したとおり、2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の放射能漏れ事故については、世界中に衝撃が広がり、世界中の人々がその後の経緯を注視してきました。原発

事故の影響が、霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼にも影響を及ぼしたことは周知の事実です。

今回の世界湖沼会議は、未曾有の原発事故の影響を受けた地域での水環境に関する初めての会議の開催となります。本来ならば、「原発事故と湖沼環境保全」がメインテーマになってもおかしくはない状況であると考えます。

今回の湖沼会議において、原子力災害と湖沼といった文言が一切無く、放射性物質といったキーワードさえ見られないとしたら、かえって不自然に見え、都合が悪いことがあるから意図的に議論を避けたのではないかと解釈されてしまう恐れはないでしょうか。

私達は、今年10月に霞ヶ浦で開催される世界湖沼会議について、以下の質問と要望をいたします。

(質問1) わたしたちは、今回の世界湖沼会議において「原子力災害と湖沼環境」についての発表を考えていますが、先述したように現在のところ募集要項等を見ても該当するセッションが見当たりません。キーワードとして挙げられている「化学物質による汚染」にも(農薬、重金属)と明記され「放射性物質」は外されています。わたしたちが上記のような内容の発表応募をした場合採用される可能性はあるのでしょうか。

(質問2) 御委員会の平成28年12月28日付回答書には「東日本地域での湖沼では、原発事故による放射性物質についての調査研究が多く行われていることから、これらについての発表は基本計画等で示される枠組みの中で行うことができるものと考えております」とありますが、どのような「枠組みの中」で発表できるのかを具体的に教えてください。

(要望1) 霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼や河川等の水環境に原発事故が及ぼした影響や今回講じられた対策、見えてきた課題等について、各国の湖沼関係者等と議論するため、原子力災害と湖沼環境をメインテーマにしたシンポジウムやセッションを、第17回世界湖沼会議内に設けてください。

上記の質問及び要望について、2018年3月15日までに文書にてご回答
ください。

NPO 法人アサザ基金 〒300-1222 牛久市南 3-4-21
電話 029-871-7166
E-mail asaza@jcom.home.ne.jp